

ふるさと探訪

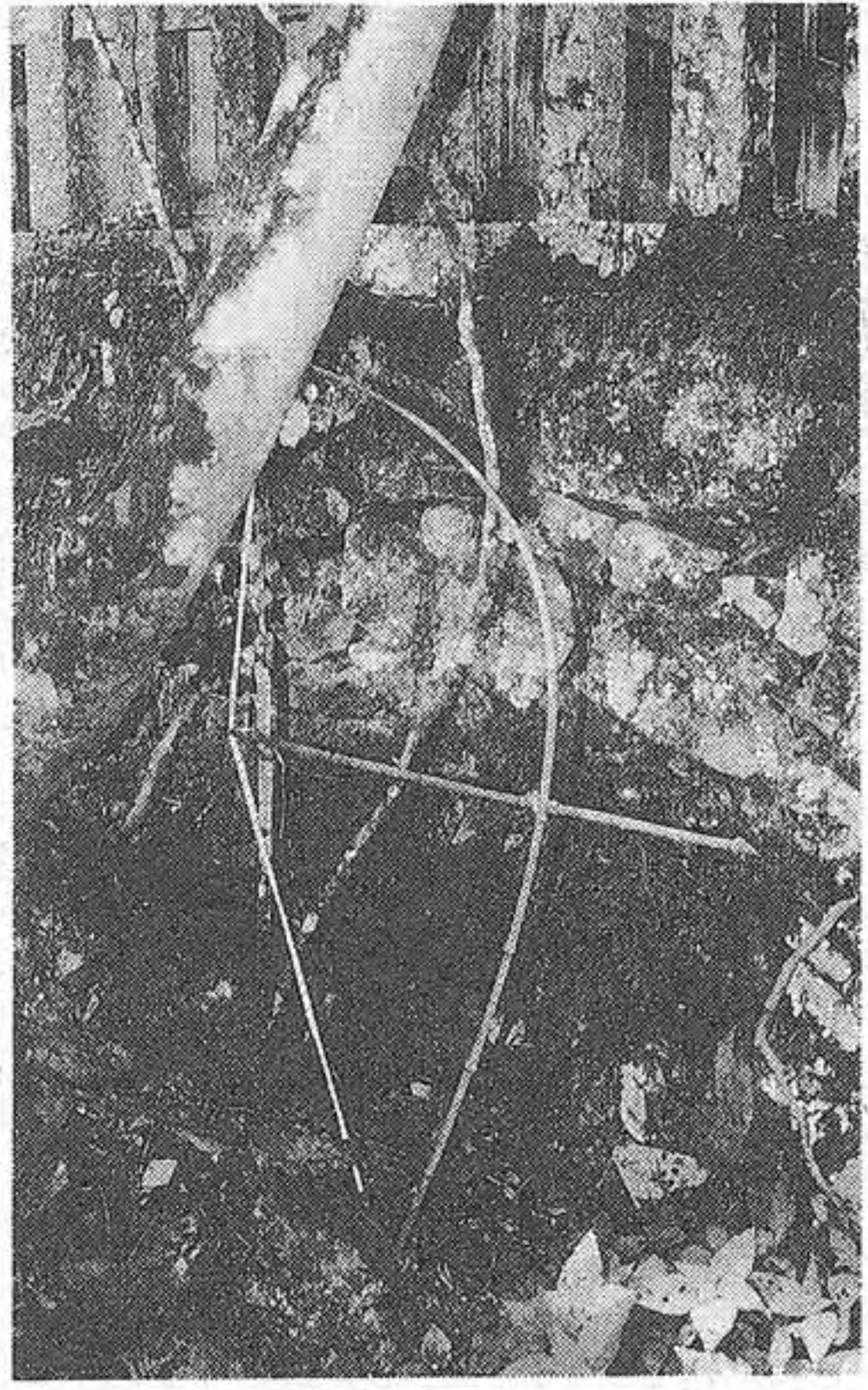
(14)

和紙の里・黒谷町を更に奥に進んだ所にある八代町。ここに鎮座する八代神社の本殿に通じる石段の左側に、ツバキの大木が立っている。その幹の部分をよく見ると、参道に向けて今にも矢が放たれそうな状態の弓が備えつけてある。弓矢は、毎年暮れに住民

八代神社

して信仰されていることと関連が深いのではないかと想像できると、その武将とは、安倍宗任(あべの・むねとう)。今

が竹を使って新しくこしらえるものだが、この風習が生まれた由来は定かではない。一般的には魔よけの意味が考えられる。だが、同神社の祭神が八咫古命という神様とともに、平安時代に実在した武将も一緒に武神と



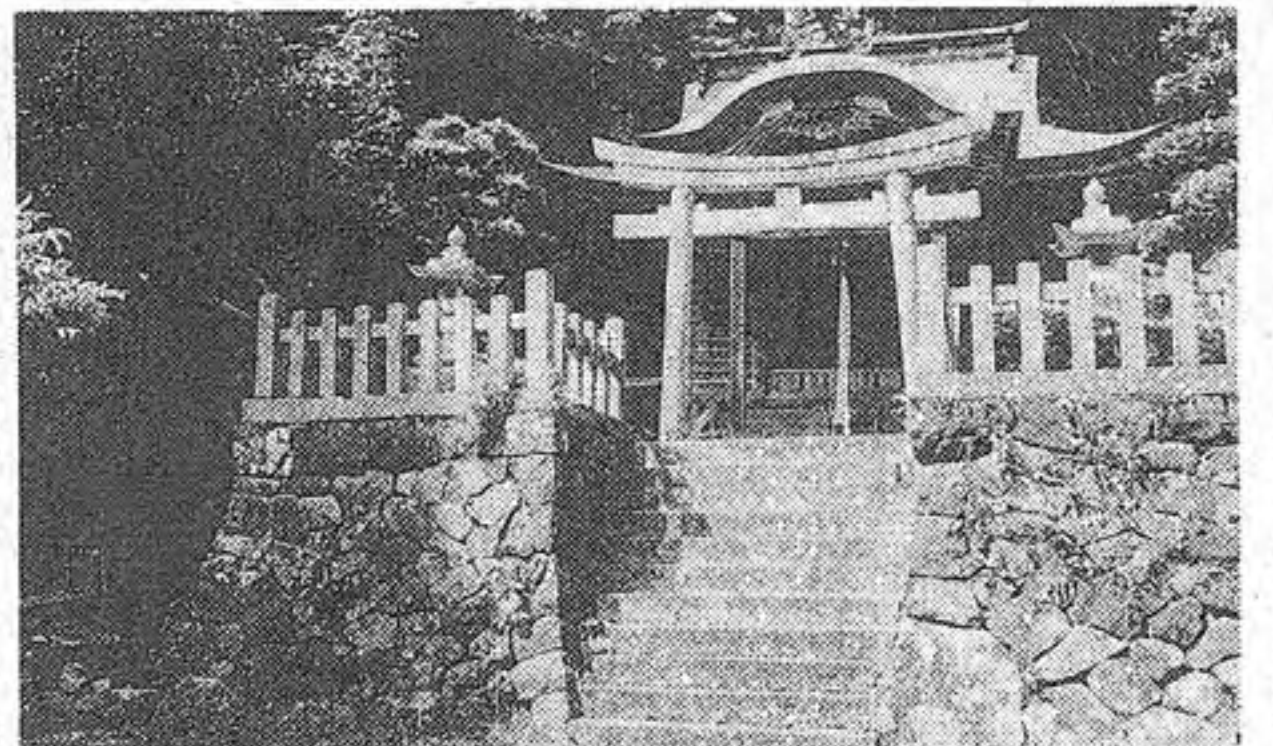
参道に備えつけてある弓矢(写真はいずれも八代町で)

の岩手県にあたる陸奥国出ばしてきた。これに対し自らの手で殺害した。この身の宗任が、なぜこの地に場所を「稚児ヶ滝不動明神様として祭られたのか。皇は源頼義を陸奥に鎮守府この事に関して次のような言い伝えが残っている。將軍として派遣。一〇五一年から十二年間続いた「前十一世紀中ごろ。政治が乱れる中、地方で次々と武土団が形成され始め、東北地方では安倍氏が勢力を伸た。この戦いで安倍貞任は死

安倍宗任の最期の地か

東北出身の
武将を祭神に
今も住民が弓矢奉納

亡。一方、弟の宗任は捕らえられて京都にまで連れてこられたが、京都から脱出。そして舞鶴の真倉にある不動堂に隠れ住んでいたところを追手に見つかってしまい、相手が捕まることを恐れ、子どもを



安部宗任が祭神として祭られている八代神社

元さん(74)「黒谷町」によると、同町で生まれてくる赤ちゃんのおしりに、しゃもじの形があざができるといふ話もあるという。これは、川で食器の洗い物をしていた村人が、手にしていたしゃもじで追っ手に宗任の逃げ場所を差しながら教えたため、宗任の怨(おん)念が残ったとされている。宗任に関する話はこのほかに、伊予国(現愛媛県)に流されたとか、京都の北にある京北町で処刑されたといったことも伝説として残っている。京北町の伝説では、宗任が処刑される時にとげのあるユズの生木が使われたため、同町では

(細見)